

～ 【 小さな成功経験を 】 ～

10月29日(金)の学習発表会、合唱コンクール(3年生)に向けて、学校が徐々に活気を帯びてきました。

子ども達に本物に触れさせ、本当の感動を経験させたい、と願い、今年の学習発表会では特技発表のコーナーを設けます。

中間発表会も兼ねて、これまで2回リハーサルを行いました。ピアノ演奏、ダンス、ギター演奏、空手、どの生徒の演技、演奏もその完成度の高さに驚きました。中学生にもなると大人顔負けのレベルまで行けるのか、と感心しました。オリンピックで続々と10代のメダリストたちが誕生したのも頷けます。



【野球・イチロー選手】

生徒の演技を見ながら、ここまで来るのに練習はさぞきつかったろうな、と思いました、そんな時、昔、どこかで読んだ元メジャーリーガーのイチロー選手のインタビューを思い出しました。

イチロー選手といえば、現役時代の数々の記録、名プレー、名シーンもさることながら、引退会見でのあの一言「悔いなどあるはずがありません！」が強烈に印象に残っています。やるべきことを最後の一瞬までやりとげた。我が野球人生に一片の悔いなし、という誇り、自信に満ちあふれた一言でした。私も教職を去るときに、あんな境地に達することができれば最高に幸せだろうな、と思いました。

さて、このイチロー選手に、インタビュアーが「努力は報われると思いますか？」と尋ねました。これに対してイチロー選手は言いました。

「何を頑張るにしても、何時間も時を重ね、何回も回数をこなす、気が遠くなるほどの練習をこなすことは大切です。しかし、やっている本人がこれを『努力』と思っているうちはまだまだです。『努力』と思うということは、どこかで面倒くさがついたり、拒絶したりしているということです。本人は苦しさ、辛さを感じず、それに打ち込むことを心から楽しんでいる。そんな状態が続き、本人のそんな打ち込む姿を見た本人以外の第三者が『すごい努力だ』と感嘆の声を漏らすようなときに、願いは叶うのだと思います。」

どんなに頑張っても、自分で「これだけ努力しているのに。」とグチが出るうちは、まだまだだということです。時が経つのも、腹が減るのも忘れ、嬉々として無我夢中で取り組む。自分は辛いとか

苦しいとか全然思っていないのに、家族や友だちが「すごいね、君のがんばり。」と感嘆の声を漏らす。そんな状態になった時に、願いは叶う。イチロー選手はそう言いたいのだと思います。

部活でも勉強でもそうです。「やらされの練習」「やらされの勉強」で成果が出るはずがありません。また、成績が上がったり、試合に勝ったりしたらご褒美にゲームやDVDをねだる人もいます。しかし、何か欲しいものを手に入れるために勉強や部活をするのは、真の動機付けとはなり得ません。褒美で高められた動機は決して長続きしませんし、またこんなことをやっていたら、お父さん、お母さんはお金がいくらあっても足りません。

大切なことはいかに好きになるか、です。勉強を好きになるためにはどうすべきか。全教科、一度にまとめて好きになろうとするから無理なのです。教科を絞り、さらに分野、単元を絞り、担当の先生に次の試験範囲を早めに聞き、そこを徹底的に勉強する。そうすると少なくともその単元の問題は他の単元の問題よりも格段に解けるはずなのです。

部活動でも、いきなりスーパープレイヤーになれるほど世の中甘くはありません。まずは一つの技・技術を徹底的に練習し、その技によって試合で点数をとれるようになることが大切です。

そうした「小さな成功経験」をコツコツと積み上げていく中で、気づけば勉強や部活が大好きになり、いつの間にか成績が上がったり、またこれまでどうしても勝てなかった相手を知らず負かせるようになったりするものです。

私達大人は、あるべき理想の姿をゴールとし、それに到達していないからダメ、と言いがちなのですが、そうではなく、ゴールに向けて努力している子ども達の姿をしっかり見つけ、ちょっとした変化を見



【卓球・伊藤選手】

逃さず、何か少しでもできるようになったらそれを認め、褒め、それまでの努力を労わなければならないと思います。

そういった意味で来週に控えた学習発表会、合唱コンクールをととても楽しみにしています。担任の先生を中心にクラスがいかに結束し、山あり谷ありのドラマを経験し、そんな日々を目いっぱい楽しむことができたなら、きっと素晴らしい発表、合唱が完成すると思うからです。

3年生にとっては最後の行事となります。このクラスでよかった！と思えるような本番を迎えてほしいと思います。